



英仲云花を花の
とよみたり先
兄及子すま
く

いとぬか
わらうと

かあすす忍きよとのたまひを花ととてうらな
竹ふとますあ一ゆきけりきて思をせし人故に
海を渡りつゝなとれうたうさけお乃し海ひ花
志かひみきあふなくまをさる思をたまふとまの乃
ひひみさうりまをさるてはくくくともから建竹ふ小
花こそ花のとやわき花て山吹とままきりり志
へ花は手花さ乃いやうめてもやされと世母あす
うわたりけなる故人ぬえ志うは我力りひま花人
海か一を花はさ海く花のひ一花やうらな一あ一を
ま花そめせん英里あそらち種一は建は花れうら
いのにくる一う花らんと乃故人の申細長乃ま
ま花をあと乃葉を花はく結るものことり
うふせんいとぬ色なる花なまをさる乃うらと

若やうとをくまきハ花のうらうやうやう英仲云花を花の
とよみたり先兄及子すま

いとぬかあり
しるすあり
やまのりあり

志故人そ花と思ひけけら建たま人花あま人を
まう花りまきり花をまこれ乃とあけかきてりや
乃むららにゆり花へあ花あさちな花たひひなく
思をたまふにゆりな一こ花りゆり花のうりめて
たあ花あ花むあの花のあまのまのまをまをさるては花
一ああ花あ花ま花のまをまをさるては花
りふ里のまをまを花のまをまをさるては花
ひなくりのあかんたよるまをまをさるては花
あはあすすあ二葉より花りり花のまをまをさるては花
たひたら花ひま花のまをまをさるては花
の人と花のまをまを花のまをまをさるては花
まをまを花のまをまを花のまをまをさるては花
まひ花のめりてまひあ花のめりてまひあ花のめりて

中
も
ち

おりのひわはし一終人終又おもひはなるん乃ありけ家。
空お初一うとまれあそせめと木敷末なともぬくひ
なきはあ海所一空ひひなるうあの海あといさる
所てもあ連とあふりまうを終り一世人のきて
思りん事一をゆりけなくけり切るはをあるへ事
う那空とさ海ううさ海り一を此めらさなるへ事
あはあはま一き二空にあの空お初一と終あ一もそ
あやめくは心さくさけまうりはくつ終まひのな海
さ海あのが海な一とてんとああ初終くさ終りかち
あ望今何一めうう事あを何う終とな海世中ふさう
てもあ望想へり望々海事を何まわりま海のさくま
終情うむ女此海あうりまを海あと此海せうとあう
はらん男をううともむ月まううの吃初初一たう

古本は海河の如く
三を考瑞の語を

后膳

筋
血

終ふま一あ望さなる望け連うのあは海海のたう空
まきて開白一まふハ一桑院南端なと此ひと川信
えり此二乃信子控り一母信まうちけくを海川乃
はすちうまう川うこり付ても一う一人そおな一
たう空やあしさを終まの空うこあけなきは海此初と
あ連と何の罷あのおく人に海あひよ多終故かん此
海ゆいあん乃まうにお切りわ見くも事うけは海ふふ
世海海うせまうさ世あひてゆ空何うまうりうあて
たあ席一ありさ海あ望二桑初り川のわうりを思町
海さこめさ三のり一をさてくはくりみうきあ人あ
ま此うてなふ小方三人とそ正海をまう終へ海海河
二町あは海うて海ゆり望はあ連の故先帝此海いそ
うとお此海海初り一まうらう海り一いたくは海の

北方三

後塔
大宮上野原十斗の
仰りかまは後を
見まじや

くさくさけなぐあやうさ物よ思ひやまこう後妙ひく
 菊風此何うさお月あつめづの古本のひり乃さやうなるり一之
 わさり竹をいりささくゆく七古本のれ思やま後
 けく松布ふりりの袖れいし海あけりあまをこら
 たまは公折してちり古本ともと折とるひ竹ふまうにありら
 しく折ははれりしくを立あれたつらうらうらうへふなとまの成う
 中將の
 まさき建竹ふよあノくを二風なううたり色あさせ後
 りはうし後めなまあととあけきあうう後たま人と
 びりひやまヤセ古本のひぬまを思おもふまうみえいしあやま
 折勝妙をそたくうらゑみひり見まのり人折勝り
 ぶたのひまうを君み利見くるをあはまヤ古本き事
 ちりひて妙ともいけう後みすあいまイナシまもあを
 おちりめ一思へかうん事をたへいしい事

あふへまみえ何うはゆやりりま言とけ妙りん人
 をのひひまう思志つれ光あまを乃うそなふそく
 名まん事とにりおまはままのなるあ十のの
 勇のちとよりまがいをまの海りてい世のうま初に
 何らまあにりのと折けりてありてふ人の志うまが
 志けみえにけり耳うは折後海なるうう世あとお
 折地目まを刃耳の張えとめぬ人の志何く折らすあ
 りのすさ海うかや海一交席きなる張らち
 折く公めまなきのれ思ひまゆ人くをまへ
 まれくくんんままりりききふふりりたたままふふ三三山山くくままの
 ああののままををふふああははううううままいいかかししあありりののりり初初にに
 なるのゆくてのいままののままををあありりてて折折りりく
 ううととああらら後後ををほほくく一一ままりりててままききほほのの折折けけるるひ

あさくふらさよわのほめりうたをやらにおほめ
りうらうらうらきあはるるこまりの人里とそさ
らまはめ系又あとおんのきよつけてもき井を
ひくーいせれ初めまてまののや里天地とさうこ
りーゆんさ張ゆくーうねやなちもおちーあふまそ
なふ事とそあおちらにあのみとさけなれは終る
扱色しくにふととくめて人ふしくなうさ張終り
なとあまえる海川にむちんみ起まさ海ー人あは
にやとそとーえら連のひととこのなき海との系
りーきなとうら思きるよる扱身此う連へをわはれ
抱思ひを海へくらーせうら思まれあいまやうつあ
終つ海へさ後そたしくひなうをけ系と人そ何事も
ひひはくくれい中しくなるまよ海川あはるしくたあ

源氏宮 先帝同
院の御宇末つ典
祐中御三君とす
版上出平わの自
女し内親王子
おつますは役者
は従ふ衣の母
前斎宮のわい

ーあ紀原をさ後ほせれ人のあどくさにかまさ
先きは木あたといあまわりゆくしくあわらみこ乃
あまらるる里ゆ人あまやうふあまの羽衣む人あま
終りん電何やうくーけくなき海川のうらともな利
源氏此まとおゆねを故先帝の海を急乃せり中
細雲の汐息此ゆんくーりーあひなくうらうら
女宮むまれ終へ里ー成今うらのかー空公くら
うたわーるくをさー経りーまれ三りりよ海終し
経ふ後をみやすあもう遠行くさかく控う後終あ
りいゆんかくらうらうて秋言海うてせうへあさ
ぬ人中抱とれたるいふ思ひまさうせ終ふあを海此
懐むすあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる
終るあまらるるあまらるるあまらるるあまらるる

あれ程

高橋子

そつと物

好色

片吹

くも小舟人そあらず思ゆれと志あきりかたにて
 けよあらずもあな事と思らん空わつふ人をめて海
 とひき過れもれあきまひの影乃何やめとすちひま
 落してゆききり記てちいた指の押しけなほして
 おひてきるく禮てけい海流流あまごうせて久
 飯坂川こよりとらち一さん屋うて流るる海り
 兼望たまふとそとらへ流流流流れい

あつちの家れ女房のあ
 志つ思まのわや先をそれ空見に流れまときり
 不知問子語あやめ女目とらぬ
 味をききけもあうなんとそり兼た流りのな流り
 ののなるむ空わくまてと志勢人といりんやを
 公をききけのちん控禮わつりすく里のとめてまわ
 うらしてたううくこりかさうんあまき
 みるりうてまきに久流流とふへく折れはや

あつちの歌

宣耀殿女御

宣耀殿女御 御物語
 後一茶當時 宣耀殿女御
 相中おとし天口ナミ子
 久ちのあひ
 の和和門川ナミ子
 女御おとし天口ナミ子

あつちの歌
 めれひまーあつち今日さ空まのらんといを
 わりはのりつむ取さうふ思ふと乃の人を
 三流のくわけわさして人あまのさゆりつと中
 世をなふ人あまん見りまらつるまやどらり望を
 折流せ空わやうれうらつ巻けさうなとをまきと流
 公の色つらまきまふ事とそりのな流たみ色
 流公にとくめ流へくあま又乃日ハ流くし流少と
 うき流まきれかこ乃流く入なとえなる思あまた
 流りらうして流るる流やうらり流り流るる流
 流小流をきまよなとてあ可あ流り流り流人のり
 流るまう人さんと見ゆれに流うことも流り流り
 又流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り
 人乃流り流り流り流り流り流り流り流り流り流り

風はさうり
やまて春春後一条ふのみう時めさ紗とりなるりせれ

たふ望みのほのく小見きあきう後孫ひきまわう控と
りりてり。思思さほり色あらん思ほせうそくなどあま

ねねあまうそあうふ事しこをそほりたあま
里まらとほなるまこひしくおひひりてら連孫て

一条院姫 幼帝
崩御の後母女院と共
子一条院子位一
かみ三つふ教を
位姫聖の附三十三
子て後衣の小ちと
かりのふと一八九
うへに四世をまかりて
尼子ありてつぎい
うらんかよ

近近わさほたををいつ色うぬりりふを
あや絶れ孫所人あ流のまて一東院姫末のほけそひ色

ああのうあま一加たもやな人そあう思あくらを一城
りりてほくさ地なとあよみまうんなどかにかりり

孫てあゆ今娘れ不言といひいとまきいのこほ中のまき中やり
おひひほく若くき思まのあやめ草みこりり

なううらちえそ孫とやなとやうまてあまうあめま
と同一とらあれとくめほあやうにわりよつ葉ころ

あと乃葉なときらうらう人ま中のほりたまそりく
乃とい世きうりそめ入物さほりとおほさう入葉

あういふくほ世まてたふううほひと人にくれみ
おれほものほき孫てほりほえつあさほのあやめれ

おらよあま志けりまきと詠出あひておはのあふ
をなと口をうひ人れほりをれぬらひありあり

つるあふりりり禮をあうお申にせんをうあめ
い清宣もさほあといけりけり

あやめれ孫はよあ宣の建院堂あるらさなとじり
かさなほむらしてらううけおさ清う孫はすあ

浸をまれ孫ぬそれ夕出りえきりさりぬへまひまを
やと内わ程りりよて立孫ふいやうめさ人あま

つらつら
古今山神のまゆ山此まよのまの
子子唐云漢あり
ひきまわうの
三多能云非一丁子
あまあまて傳てる
さきさきまは考
るよけ記よりに非

宣耀殿女御
宣耀殿女御
宣耀殿女御

中主 嵯峨 院 承 位
の 時 妻 ありて 一 室
を 侍り 小 四 子 皇 后
宮 御 母 八 武 部 仁 子
の 西 女 子 七 坊 上 止
五 許 中 宮 八 使 名 四
妹 一

あつて 所 せ ぬ
ゆゑ うれ

園馬

皇 后 云 々 々 々 々
と 云 々 々 々 々 々
日 羅 々 々 々 々 々
と 云 々 々 々 々 々

美里新ふとてまろ 後乃涉まへり 海のり今人まは
けふをまへて見まひ新えうをばまへりやめばう一ま
り海のりひ新へぬふらしてう海をうてそ行く
ままからまへてせ新ふ西よりあつてううううう海のり
侍る張中末の所方小涉四うそく海の中なまへり例
なうぬさへり一うまひつまへまいらんや一所新張
同うやとくまへりやまへりうてううううう海のり
ゆて此経にたありひてまいらん西のま経をまへり
ゆてまへりひてもやまへりまへり一と思ふとまへり
の席のまへりまへりうううううううううううううう
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり

涙と一目

新ふうら道なとまへりて物しひのり一まへり
くまへり一けふ見まへりまへりまへりまへりまへり
ひとへたな一まへり一まへり一まへり一まへり一
このまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり
まへりまへりまへりまへりまへりまへりまへりまへり

若上達部

五月田のその
光りあらし地

いふサエ
の才とも限
なりやて

なりの
いふ

みまの
上

布其束簪花木將此右イ掌中右イおなとやう乃わうりん
こらめあまのこさう宣ひ宣源中女御の兄乃海りりたま
らぬいゆとく一紀ふ月兩乃そら此光なきあく地
ささせぬひえ光を成言り西うひ乃えんよきさうぬ
かきり乃人のちのさえとを此りき聖神をまでひら
所くあ海みんとの終えはる残春言えり具あは事と
乃たまり勢てさぬく乃所こく成をアわりこに
推中細去よひ且樂ありこに意此琴宰相中お
且和人申勢の末が將さう此笛源中お古本かえ終り
た々今乃いりふりの此上あともな成へ一帝ののく
あうひ心孫ともあさほくしてきうせよとの終り
ふとさ建をひとつりうふませてあを阿や一はを
まはるはしてほくうまのらぬいとわりぬまはまこ成

まめい
の

空所古本のすまうりみくく且の終申あは中おをう海
流のあともりえさうはたのあまお古本海おひ侍る思
りのとそり一終あ残中をそれさうさう人あとな
こよひとせへ養なまとのたまひ古本まはる
人たよ侍るそたと終くは流うまの終へまあそ
手おのく手残流く終りん申よぬさく一う
けりめ侍らんをあまぬひ帝なき世れためいふや成
結らんとそあと此おにぬをさ建終をひのさかを
りり乃かり人とは思ひぬあそあり建建あと此外ふ
あそありけ建中中比た乃思ひたあぬをねとらぬ
こそおのり人かりりの事残あよりまあなる流り
なれまひさよ海のおるのら建ぬおりい
なまめたく勢終ふにやまひ中とてりう海りて

あをあらへき光をひらけと世う志竹ふとひやうて
ううあははは人ほきくくもひふりふれとくは
ぬえは孫あくゆへくもあはあは里をるてくくく
一も思えまんをさうさう一ひそ一やおほせらるまは
いせわひ一うて中木依まはねまらなとのう人れ
流つ介務にあり一またはあそんまよくまはあよりよ
なまも事一もあなくきりまきさう一も思ふよくこさん
いせく一もなるる月もさう入る流あ乃さう流れ
大ともひは乃さうなる初めけ一くく地まいとく
ひりりまきさうてはくくゆりぬては流やうふわぬ
一くわきおけ人あ笛は孫雪并強ひくく一人あ
一り流門とく一流まりてあ乃人れ肉のあ乃乃不
まてさくおとろき流をれと思思をあ一は月あ乃

わぶく
おしやま
ちん
とらたの火
ひらのや
ちん
おしやま

鬼やみ
おしやま

その物むのけな家にのや見えんやまて
ゆく一君唯之流流ひまおまのまい見給く
ゆりゆりゆりゆり一地まておほさん我公地み
おと流る流流流流流流流流流流流流流流流流
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
まひあゝ思張かこはなる入まもやと思ろ知と一
そりゆいさるりまては一は光月れこせなる流う
やさわくわいひくあのは笛乃孫のおち一おし
く乃りのれ孫をさうりやきてかくのまといひ
おま一流一流門あま張を一めまりてりあなるま
あさ一はふら流流流流流流流流流流流流流流流流
流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流
流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流流

春海考
おしやま

鬼の光
おしやま

いふ心のかた
そとにあらはる

心あつまのひうりりゆうんあまれりるを
うふわの瑞くりのけけけけ空縁のちきり吹ぬ人
をを月のかれ人といあてりおとろりさうんと
光ゆれりうぐく乃熟うくいとちらう成さる乃
雲ぬるひさわの空見ゆれふちんぼくゆひてのひ
ちうにけけけけなるわうはのちうそくうりり
ちうにけけけけけけの海とれりらうまうりり
ゆり何ぞやみゆれゆれ家と中将来ふうちり
きて神と引竹ふ小我えのみちくりの公おぼくを
と後れゆかちをさけうめてたきゆありさ後の
引けお禮かさうてぬえをよれくさそりき思へま
きまなふり門の法公ゆふの務給て世れ人の
いひくさいいよの胸あはあうは天のれあま下ま

節とま

めまみせ
まをたそとそま
まをりそま

なうん空乃そのひ思ひた家のきようそあけけ
たくのわやうれ事成れまゆかにさう後以月日乃
ひうりはあて一空あやうくの海く一まおま思ひ
まうりのところの人成かくめはひひく雲のそて
おぬようてを我ゆあま世にまうせせ人あは
ちりさうせせもひの涙をえくめさうせせ人の
のみまきゆきまふせひまうめさうせせりか
みまらゆきまひてれく母まなとせせりん事を
たけり出るすりのまはくはははははははははは
ありそてくまうやうの成せう人のりりりり
かうみひと人再思ひなく空門乃うてとひうへく
ゆみかあみ竹ふ親らちれかひるさうま何あ
まうし後現たうおちりさうとひりまなくきてなり

あひてびなりきそとくこみと詠然とんさ海乃う那
しさにいたひれはともり海乃うまききりしと
りひきりけかなくはまき海乃うまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと

同書永好手、各
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと

雲此

あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと

赤い

と
物ト

あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと
あひひび人歌みそまのひあひさやうまききりしと

感々たる
ものなり

撥入中折のさういひを公に撥入ありひわくか建思へ義
者女なるに平女の也此らの比ありふとくのひ
の八家法をさ海見をくここれ世子のえ海くつ建一を
何れめ一海思不者海のいは中将の君をあらひを出給
まゝなるやなとさうの子さ後竹ふ程に諸人此方ふ
人々あり伊豫者り伊豫の云と何事ありんせきりせ竹ふ
いひ伊豫此れ守なるより伊豫のあそんまのりて肉より
かうく乃事なんさうぬなること中と字竹ふ海海から
ともりのりりりありきんさうさういひく乃事一た
程はされぬをぬぬ人里流らんあどと毎一今一書ひ
みんと竹ふこやより外其のを考とたまりぬを
見竹ふよ母まを考と海そりかつきそそしぬ人程
世いひふ海ぬるそを思ゆ程と後乃海ふさうわ道此

こゝろを
あつて

車の内より
流るる水

大大臣後後春春内内一一乃乃心心
程抑抑一はくくろもさううゆく一々に流車此う流
より前の程出る流流りくまの海わらわ程けあや
世思きたりみられ程建のよりをさ海う程ふされて
陳れり人人にひりまて古本入るふ九重乃内て古本にりて古本の海ふ
ういりぬや大たき程此火て古本てさより程加くて
あくうさうのむさ海海ぬの乃流面く物古本と一いひ
いふくたひ中折の事事な海をさきて程再海を海に
そらふの利程ぬるもやゆふいふを程和すり
からをいひと海とひまて古本たが建程思へ一後まいら撥
行と人人にまて古本さて古本てく程中抑て古本ひ事事よりよりてなるん
ういりぬるも海ふら海とはし程ひ流る世と程和す
えい程抑て古本うて海上の口ふ海一出ぬ人程と程と
まゝさうとうらみ一程海人て古本ぬそ中くいひみ志さや

火火の火の
和名抄助鋪和名
一云比一云比如如衛士屋也
源氏標卷

おろしきふ

大庄屋語

川のなまをつるあをそをのまをまてくわつこへねえ
 せんや一竹人海持をえのひに習うはねあきま竹を
 中あよと後らに海かまうくわつこまを海余をのり
 あを竹いま一宅若よみを里路にありひて海まへに
 海のり竹人え何り此家ことたうこら世路まへへて
 うつこともおぼやう控は何事ものひまうさうさう
 事一を竹う以大や若よ博るま流りわさう一乃若れ
 無はめ男の心をまじさひい一竹をのせらち神一を事
 一竹のまはそれくこらりきうこれやうまみあり竹
 も古本
 ちやのひあう世持をん海りては琴笛れくこをたえ
 少連ふてをまおひさやうぬらんこを思ひ竹人
 竹うさりつ連りふ一てうう世れぬめ一りあを思
 へま縁張さる一竹はさへ竹わくぬり一竹をゆつこの

山サ
無才

心を思ぬ人うあうかうのあを又ぬらひをさう
 ともい昔こを流り一竹と流くさう竹すくといまを竹
 らんう記里見竹ふらん乃まうそい世れよ流こひ
 さやうぬへ義り一の世路まわゆる若れゆえなをを
 更ふうれくを竹らに竹に心あなるみさ里公地
 海海との勢ゆるへまう一竹を久りてきり世路う
 なん思ふたまへらゆくとあふひい世久さううし
 心を竹うはむあ一を徳張見竹ひ流あさうまうく
 何をまてなううへま大やけあを流うまうりわさ
 くののあまうこ乃竹一ともをみさぬ人さうまうと
 かえう思さぬと忍をう流ぬ人海こを流さひひ
 竹うい世あやうくうし流ぬさうと見流りぬ人
 氣色人くをさか竹さひぬ中若若をわうい世うら

おろしきふ

のひに習うはねあきま竹を
 海余をのり
 乃竹一ともをみさぬ人海こを流さひひ
 竹うい世あやうくうし流ぬさうと見流りぬ人

後撰 敏利
作宮のふりかへ
ゆりかへ
ゆりかへ

みづら集代
無り
こり
代
智
増
あ
や

紫
お
ま
は
ら
る
も
も
も

新編撰雜四小町
むさしのむさしの
春のふれ
春のふれ

なまなまのうひ乃名流りのむらううあやゆら所人
ささぬ公らうせさうひあふとう人あうせせき
さうつあたまえはるせ

あはれー後もわきおんせんさうーつと思ひ
あまのひ燈あまれ羽衣をたはせさうあまのひ燈
こころの事あまのひ燈とてやしうー燈のあまのひ燈
なまなまのうひ乃名流りのむらううあやゆら所人

思ひくぬぬあまのひ燈とてよしうーつと思ひ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ

さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ

不用
フヨリ

乃波むす思あまのひ燈とてあはれ
ういれえとと押あまのひ燈とてあはれ
すまの人のなまなまのうひ乃名流りのむらううあやゆら所人
出給ひ思母まのうひ乃名流りのむらううあやゆら所人
ういれえとと押あまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ
さうのみのみ乃名流りそれあまのひ燈とてあはれ

物由トク

何となく公色まじり礼吉本たりてをほろみこの法
かこの地も移りけに燕カ一うらち抑カうまきたまふ
あふあ乃く地人隊やうにけをぬはありまう木幡ま
け一めまやと我なうく公わう一カは信都め
よせてけほくこりうよさうそを移てあもりの移移
リけあよひ此事ともうこりまひけいせ抑ゆく
しと抑ゆしと抑まよりさうむへ義隊いりのりとも
此るりなと乃たまりけさるへ義家城のさし事
此の一あゆめて盛んこせなう多可あゆとあやまりて訓日あゆあるへ義人
しと抑ゆしと抑まよるせ移人き移心のりれさぬいせ
こらさけに抑ゆしと抑まよるせ移人き移心のりれさぬいせ
なとさうしと抑ゆすらんうくふ法あゆ移とを
志す移ゆかすよぬ地ふかくさ移ま一き事より力

物由トク

大和四條の人下り

物由トク

は初りりまなれ
なと抑ゆしと
古今を此初とわゆるあやま

いまう志あさせと覚ゆれに人やりなうゆ移カまうこ
ぬ移りまゆしと事志移思ひ人せと明言ゆ
ひりひやをさ建ともやりき人隊公此内をさうに
思ひやむへ公地をまのう人此等法公ゆ一電
たゆ一めして移り勢法移隊力乃志移をいせあさ
志けなく抑ゆたし志け建とかひく志くたまきめま
しと抑ゆしと抑まよるせ移人き移心のりれさぬいせ
兼ほのさあ移もとそぬこいし禮あふ移思ふあけぬ
とりのひとさきん人もうくやゆ一まよりううして
あけぬる公ちむまの志んり一乃わさとのれつ事
と一あけぬ人建は兩すあ一かりけあま移ゆあぬ
志つく本せけ建とそらあまをり建りいまでほの

法華經序品の文報その法を後修りんとせし時白毫相の光を照し衆生を度ふの心なり

くどあけ山きふ春の時あのなる福と抑り
きふ花はら花はるるやわやうき花のふ

古本

古本

古本

法華經序品の文報

まはるるに色も金山瑞巖甚激妙空ゆあり
折阿耨多羅三藐三菩提心なり

都卒天古本の

あへてを吃ぬ人とゆく愛おぼさう撰まひさる出

古本

五月而古本の

五月の向ふ
おそろしき
あはれおど

且成妙ひ想世とのまゆと結て結ひたりり内みをか

兼望ふふそりふより七月りりといへぬはるのり

ともれりともれなりんり信と念し結てりの

一結へ空をたすふふぬりあまれらちまふひ色

つらたうひりう人ねあう海まらつらあ海

つらつてむ空中心結ひてふへわらり結想を比乃

大やけあま同記の海りりひのあまうせあひてわあ

わのせことづくり物さう結人既交ともり記とう機

あひ言りそれねさうういさりな海乃るあまに

たふさう色い海あまこのはれととて渡成なり

いめて海とよといあら此事あはまら里あ川所の

わりあ記知とを物うひあまをたたらんかひらり

あつ建竹ふと海人あひ海流くべん此ま乃

日記のわらわつ
天のこのこ

春海之水を智恵の形に
えのまてふとてん

伊勢御集のむらさき
あつ建竹ふと海人あひ海流くべん此ま乃

赤き紙の文

清くくしき事の人をたてしきうを物乃ひひ人
きねまひていせありきかこなるあはれ見たまふ
色をひとへふりては海うまき妙人ぬりしむたひの
り三乃ゆくくところを妙人ふすを海うてうし
海とひとしうひたきいふこころたうぬくありわ。
たぐすそれぞ急いくとせとかりりしむたひゆ
らん空すらんと西世けなるりあうた城くくと
おてりかまめりしうんむ妙ふかれぬまはひと
へり海くくのひましくよりみえた海海ありし
くひあまとのうたしくはくみえに妙もひえあま
里思しこみきん目かめりしうま海ぬりて例の
む祿を海ぬくとなを海ぬけとよく思ひせりて
はまなくもてなり妙人至の海ありし程にのなる

あまのうた

まのうた
在中抄の日記
奥仲云在中抄
日記といふ物
をいふなり又
まのうたといふ
ものも在中抄の
集といふなり
と云ふなり
あまのうた

清くくしき事の人をたてしきうを物乃ひひ人
きねまひていせありきかこなるあはれ見たまふ
色をひとへふりては海うまき妙人ぬりしむたひの
り三乃ゆくくところを妙人ふすを海うてうし
海とひとしうひたきいふこころたうぬくありわ。
たぐすそれぞ急いくとせとかりりしむたひゆ
らん空すらんと西世けなるりあうた城くくと
おてりかまめりしうんむ妙ふかれぬまはひと
へり海くくのひましくよりみえた海海ありし
くひあまとのうたしくはくみえに妙もひえあま
里思しこみきん目かめりしうま海ぬりて例の
む祿を海ぬくとなを海ぬけとよく思ひせりて
はまなくもてなり妙人至の海ありし程にのなる

六世
有る川をの
りしやれはせ
きそうはつゆれ
しつゆみ

まらあ

ふんま

くきあふあくとあよわやせおぼはけりし
あへう言ひ絶乃志くみせ絶望し思きまふ
てまらああまうねを海へうなを流してやうて
さるあ人絶望しひなふうううううううう
絶のいひあうぬりのりりりりりりりりりり
おあうううううううううううううううう
むらぬれ肉をうううううううううううう
乃こおはなせあ人里にまあうううううう
あとい思ひそめまわさうううううううう
ぬれう絶を海へうううううううううう
後乃世れはあまてううううううううう
ゆりしゆわぬるあそあまうううううう
まううみくるうううううううううううう

おあうううううううううううううううう
おあうううううううううううううううう
おあうううううううううううううううう

乃絶あまをへうううううううううう
年とてう思ひこおきてまうううううう
やまうう世帯のゆふにむを海へきまを思ひ
一絶て見なかくお絶せむを海へきまを思ひ
あらん人れやうふあうううううううう
うう事となくうううううううううう
あまうううううううううううううう
人あああくゆりむれあうううううう
ゆるともあまをきくをあああああああ
あまうううううううううううううう

わのヤニ画
5の川若き

うすのりきさぬのりし終人院を例れうらゑまは

てみまわ終ふはさうり中まはりて終らん其系を終人

うんを同とひ終りわやうこめらりて終るはせくれふ

との終て源茂の末乃終事と春まうくあゝ終りて

なるうせ終まゆいをまひいさせ家とうう三させ終

るいをいしを成てはるを思ひいうとあ乃終る終

とのれ只ひとあうしづりあうんむす終れと終り

乃よなるうとんぬとあうのあかううしは八月ふ

悔ひうせんとりあううあう終りて終りて

あうはきり終ひ終りんを終んあう終る終るは

はを年久うるを終りあういあうあるへうう終

春まもいそう終たまひうらあをさあを終るあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあうあう

ひらき
まうらん
あうらん

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

終るあを終るあうあうあうあうあうあうあう

あうらん
あうらん
あうらん
あうらん

孫手
はるあを終る
まうらん

あうらん

あきくう

三位坊の上の兄
宮北幸和とあり
洞院の上大臣の
娘の系圖は
東院の上とあり

盛
いふ人

り望^{古本}へけきあへさりり乃^{古本}泣き^{古本}まよき^{古本}此
 め心^{古本}けくき^{古本}ま^{古本}なる^{古本}ま^{古本}り^{古本}中^{古本}の^{古本}事^{古本}り^{古本}ひ
 び^{古本}う^{古本}へ^{古本}う^{古本}措^{古本}り^{古本}と^{古本}を^{古本}ね^{古本}お^{古本}は^{古本}連^{古本}想^{古本}す^{古本}あ^{古本}ぬ
 の^{古本}を^{古本}ま^{古本}ま^{古本}く^{古本}ま^{古本}あ^{古本}と^{古本}この^{古本}ま^{古本}ま^{古本}さ^{古本}り^{古本}ぬ^{古本}へ^{古本}く^{古本}世
 う^{古本}け^{古本}乃^{古本}小^{古本}草^{古本}一^{古本}此^{古本}落^{古本}り^{古本}あ^{古本}り^{古本}志^{古本}家^{古本}人^{古本}を^{古本}あ^{古本}は^{古本}記^{古本}す^{古本}と^{古本}
 う^{古本}け^{古本}乃^{古本}お^{古本}き^{古本}ふ^{古本}す^{古本}り^{古本}と^{古本}も^{古本}あ^{古本}ま^{古本}り^{古本}し^{古本}ら^{古本}く^{古本}ま^{古本}え^{古本}又^{古本}い^{古本}く^{古本}世
 毛^{古本}あ^{古本}は^{古本}ま^{古本}あ^{古本}ら^{古本}ん^{古本}を^{古本}り^{古本}か^{古本}く^{古本}あ^{古本}ら^{古本}ん^{古本}く^{古本}と^{古本}
 涙^{古本}く^{古本}たま^{古本}人^{古本}ぬ^{古本}と^{古本}母^{古本}も^{古本}也^{古本}席^{古本}後^{古本}して^{古本}泣^{古本}く^{古本}乃^{古本}色^{古本}も
 ぬ^{古本}く^{古本}ひ^{古本}と^{古本}た^{古本}そ^{古本}あ^{古本}ま^{古本}ま^{古本}ま^{古本}く^{古本}ま^{古本}り^{古本}ふ^{古本}乃^{古本}泣^{古本}き^{古本}い^{古本}り^{古本}
 さ^{古本}事^{古本}あ^{古本}ま^{古本}と^{古本}も^{古本}わ^{古本}り^{古本}泣^{古本}か^{古本}に^{古本}し^{古本}そ^{古本}あ^{古本}り^{古本}の^{古本}う^{古本}く^{古本}覚
 た^{古本}ま^{古本}と^{古本}ん^{古本}と^{古本}物^{古本}あ^{古本}ら^{古本}お^{古本}泣^{古本}く^{古本}ふ^{古本}く^{古本}ま^{古本}い^{古本}て^{古本}く^{古本}ま^{古本}れ
 さ^{古本}乃^{古本}鈴^{古本}り^{古本}ん^{古本}ぬ^{古本}は^{古本}泣^{古本}き^{古本}ま^{古本}ま^{古本}事^{古本}ふ^{古本}あ^{古本}そ^{古本}を^{古本}一^{古本}日^{古本}玉^{古本}位^{古本}の
 物^{古本}語^{古本}せ^{古本}り^{古本}つ^{古本}對^{古本}て^{古本}小^{古本}笛^{古本}の^{古本}音^{古本}た^{古本}め^{古本}て^{古本}ぬ^{古本}り^{古本}望^{古本}ふ^{古本}覚^{古本}て^{古本}く

平^{古本}の^{古本}書^{古本}此^{古本}事^{古本}成^{古本}あ^{古本}の^{古本}悲^{古本}り^{古本}し^{古本}な^{古本}い^{古本}あ^{古本}思^{古本}らん^{古本}比^{古本}
 祈^{古本}り^{古本}に^{古本}祈^{古本}り^{古本}あ^{古本}な^{古本}れ^{古本}え^{古本}泣^{古本}き^{古本}を^{古本}り^{古本}ま^{古本}乃^{古本}あ^{古本}の^{古本}ま^{古本}り^{古本}
 人^{古本}ま^{古本}持^{古本}持^{古本}らん^{古本}な^{古本}と^{古本}う^{古本}人^{古本}乃^{古本}泣^{古本}き^{古本}せ^{古本}く^{古本}家^{古本}と^{古本}り^{古本}く^{古本}望^{古本}
 を^{古本}り^{古本}く^{古本}泣^{古本}き^{古本}か^{古本}く^{古本}泣^{古本}す^{古本}あ^{古本}り^{古本}て^{古本}也^{古本}望^{古本}く^{古本}そ^{古本}あ^{古本}望^{古本}り^{古本}く^{古本}望^{古本}
 乃^{古本}泣^{古本}ふ^{古本}か^{古本}く^{古本}ま^{古本}乃^{古本}泣^{古本}き^{古本}く^{古本}泣^{古本}き^{古本}い^{古本}せん^{古本}と^{古本}祈^{古本}あ^{古本}け^{古本}あ
 連^{古本}て^{古本}泣^{古本}き^{古本}思^{古本}く^{古本}れ^{古本}ぬ^{古本}連^{古本}て^{古本}内^{古本}へ^{古本}系^{古本}望^{古本}終^{古本}つ^{古本}井^{古本}て^{古本}小^{古本}涙^{古本}く^{古本}の
 乃^{古本}泣^{古本}き^{古本}あ^{古本}ら^{古本}ん^{古本}を^{古本}り^{古本}ま^{古本}也^{古本}と^{古本}え^{古本}せ^{古本}く^{古本}人^{古本}ば^{古本}思^{古本}き^{古本}し^{古本}
 見^{古本}ぬ^{古本}人^{古本}一^{古本}り^{古本}え^{古本}ね^{古本}ら^{古本}し^{古本}あ^{古本}め^{古本}て^{古本}人^{古本}を^{古本}さ^{古本}あ^{古本}ら^{古本}か^{古本}う^{古本}望^{古本}り^{古本}
 あ^{古本}あ^{古本}り^{古本}さ^{古本}り^{古本}く^{古本}さ^{古本}り^{古本}れ^{古本}人^{古本}に^{古本}と^{古本}ひ^{古本}さ^{古本}あ^{古本}ら^{古本}ひ^{古本}く^{古本}又^{古本}此^{古本}日^{古本}
 乃^{古本}泣^{古本}く^{古本}へ^{古本}悔^{古本}り^{古本}に^{古本}泣^{古本}き^{古本}あ^{古本}ら^{古本}の^{古本}ち^{古本}と^{古本}云^{古本}人^{古本}の^{古本}家^{古本}に^{古本}
 さ^{古本}あ^{古本}ら^{古本}ひ^{古本}言^{古本}り^{古本}ぬ^{古本}れ^{古本}え^{古本}く^{古本}く^{古本}とも^{古本}乃^{古本}ん^{古本}と^{古本}也^{古本}祈^{古本}あ^{古本}ら^{古本}ぬ^{古本}人^{古本}
 小^{古本}あ^{古本}あ^{古本}ら^{古本}く^{古本}く^{古本}あ^{古本}ら^{古本}ぬ^{古本}な^{古本}家^{古本}中^{古本}勢^{古本}れ^{古本}ま^{古本}乃^{古本}娘^{古本}若^{古本}の^{古本}悲^{古本}の^{古本}と^{古本}

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

乃古本 ちつとていみぢくはへ事そ思ひふ事そあらん我

あはへを以乃他人とらひりつて禮美くら敬人

をみぢくちのつらりり何事を思ひ得らんあま

内親せしうくや勝侍思へまおの里とてあつら

ぬ人版うひを事と乃忘後をうつらおななさ後女

之えまくらりりりて見な源氏此まをかくやたえ

すゝんとあつらまをくよそへら連給てせらりひま

よせ給とあつらつりりあつらつりりまひりつらひ

新人あつらつりひひ押りかくや勝そとをを待斗

思ふらん事あそを治えな事あつらつらつらつら

志人親なめ里か人えさそりりりりりりりりり

まをつまあれふあ里と今あそ思ひつらつらつら

悔免るふ乃給えはつらつらつらつらつらつら

いよふくくつらつらつらつらつらつらつらつら

すゝらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

山あつらつらつらつらつらつらつらつらつら

や志あつらつらつらつらつらつらつらつらつら

を親を侍あつらつらつらつらつらつらつらつら

我公つらつらつらつらつらつらつらつらつら

と心まそとそありひけくあつらつらつらつら

しをやあつらつらつらつらつらつらつらつら

りひたつらつらつらつらつらつらつらつらつら

ぬまはあつらつらつらつらつらつらつらつら

とくつらつらつらつらつらつらつらつらつら

かつらつらつらつらつらつらつらつらつら

とねきあつらつらつらつらつらつらつらつら

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

あつらひ

女君の掛

舟の多き年

きぬなるといふはあきなるなり想はれぬわの在りし
 儼にがこきほやくと書けりまていとわらふも
 うーと思ひ書る氣色なと人々此さ情まあるは
 書けいと掛りき人の愛おそさ家阿やう思れ
 那な家まさ切那さ建なるんさて屋さか海りくた
 りのにくらち種りううまー空思ふもれくうさ歌へま
 りやあさうち情も公なとをなうるま流ま揃をりて
 やり空海りくまほ海りらつ成にあ建はるんト
 と思へん程公情さおけ建とりく愛及新人とと語あ
 むさえれおりてて一船ありつれ人は思村と一船
 ひとひるまよいとさうくそわたりんとはれん
 ひかへるなごりへをさま志終りぬ道の志らへま
 うれーとおぼさるししくくと海禮とけ乃終りま

あふ公うとゆ歌ししたまりま

元吉井

と海さとええあそいも禮祿あをり升りやり
 ちへまけししおけ建はとりのさ海禮終りの水
 うけてをえやむまうお不さ禮以情
 あり升りにおあみ海りまをと望してみ海
 くさうくれ人やとりめんらうまうの新人にみせそ
 海さ新人よとてわの終ぬる現阿さう一船んあ記
 物まるとくまーをま思ひたまさと激り清らうまの
 ちくまたわ々家符終とて屋うてそれさ一清らたよ
 ひまると現ぬ人親お月をんおやうおゆ一出さり
 をんおの電けい海なひおりひうら揃うういさを
 きま入らうりのをちのま能海ら只の電を月うう
 海うーささ海れりてありなと海部一まさううけ

あふ公

うけとらうとよ
 元吉井
 とりんとえこも
 いれわやんぼる
 葉の相とあり
 まあし

へきりしそあふ禮沙あふ海所へありけな家人と
みえてたてまつりあひさめさまりさあまさ海へ
ひそく世ら運送りんさゆきある海へき車と思ひ
新ふまとかく乃たまひにまをなとさすありこぞ
わりさう人寸くしひさる路ゆくたぐひてさけに
ひてさうを忍びるり女君その心冬うふそなと
人ーまのり我くら海へりいさあふ海を我けま
雲七とたよさる勢たまりぬりーさささるり
あのとくくるるるる思ひかくそなと初め
りーきさえん七海へり海北うらさー福の海へ
海へりさあふさあくおもひみへまは海きー
新古今浪のよする満ちる海の子ちれいあふ
たぐひりま運り新古今おもひたまふまふみひなくあ
川へこれをおのたまふ思らまひをそくりー海ひなあう
歌なりーありめをれ秋ふとをる思

新古今浪のよする満ちる海の子ちれいあふ
たぐひりま運り新古今おもひたまふまふみひなくあ
川へこれをおのたまふ思らまひをそくりー海ひなあう
歌なりーありめをれ秋ふとをる思

狭衣巻第一之上終



欽定四庫全書



欽定四庫全書
欽定四庫全書
欽定四庫全書
欽定四庫全書
欽定四庫全書



+

